

○事業所名	インクルーいわき教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	目の行き届く広さの中で活動をしているため、注意喚起がしやすく、児童らの行動を即座に察知できる。危険回避もしやすい。	同室内での支援として、遊びの時間、個別課題を行う時間、運動の時間などを視覚提示を設けながら時間で区切り、活動できるよう取り組んでいる。	利用時の特性について都度職員間で話し合い、情報を共有しその場面に合った施設の使い方ができるように努めている。
3	駅前に位置しており、公共施設である図書館、公園やスーパーマーケットなどがある。外出イベントでは施設でのマナーを学んだり買い物訓練を兼ねた活動を取り入れている。	ご近所の民家へのマナーや公共物に対するルール等、送迎時にも伝えながら社会性が芽生えるような意識づけを行っている。	地域の一員としての理解度、認知度を深められるように今後も周辺で行われる催しやイベントの情報を捉えながら、積極的に参加していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時に使用する施設前駐車場の目目が交通量の多い公道であるため、細心の注意を払う必要がある。また保護者の駐車スペースに限りがあるため車種によっては駐車が困難なことがある。	物理的要因は変えることができない部分もあるため、保護者が来訪するときなどは臨機応変に大家さんの駐車場やコインパーキングを活用し、社用車の移動を行う。	今後ご利用の動向に応じて本部への報告、相談を欠かさずに行う。
2	児童発達支援の利用児と放課後等デイサービスの利用児が同時時間帯に活動をする場合において、使用できる空間に制限がある為、多動傾向の強い児童が終始走り回るなどして全体の集中を欠いてしまうことがある。	職員間で、多動傾向の強い児童について情動発散の支援方法を話し合う。また令和7年10月開所当時のニーズの聞き取りから、半年経過するところであるため改めてご利用時間ご希望の聞き取りや確認を行う時期に入っている。	時間内によりよい環境設定ができるよう、職員間で課題点を話し合う。状況を見ながらご利用時間帯のご提案を丁寧に行う、保護者との面談を通して相談していく。
3	学校迎いの引き渡し時に、不安定な状態で校内放置されている児童がいる。また担任教諭がなかなかお見えにならず引継ぎまでに時間がかかり、送迎者への乗車にも時間を要することがある。一人で下校してくる際には出口から混雑した駐車場への飛び出しの危険もある。	学校内での問題を知ることはできても、共有するまでに留まっている。	本児にとって、場面切り替え、スムーズな移動ができるよう引継ぎは端的に素早く行いたいことを学校側に伝え、不安定な原因を引きずらないためにどうすればよいかを職員間でも意見を出し合い、学校とも話し合う。

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルーいわき教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	目の行き届く広さの中で活動をしているため、注意喚起がしやすく、児童らの行動を即座に察知できる。危険回避もしやすい。	同室内での支援として、遊びの時間、個別課題を行う時間、運動の時間などを視覚提示を設けながら時間で区切り、活動できるよう取り組んでいる。	利用時の特性について都度職員間で話し合い、情報を共有しその場面に合った施設の使い方ができるように努めている。
3	駅前に位置しており、公共施設である図書館、公園やスーパーマーケットなどがある。外出イベントでは施設でのマナーを学んだり買い物訓練を兼ねた活動を取り入れている。	ご近所の民家へのマナーや公共物に対するルール等、送迎時にも伝えながら社会性が芽生えるような意識づけを行っている。	地域の一員としての理解度、認知度を深められるように今後も周辺で行われる催しやイベントの情報を捉えながら、積極的に参加していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時に使用する施設前駐車場の目目が交通量の多い公道であるため、細心の注意を払う必要がある。また保護者の駐車スペースに限りがあるため車種によっては駐車が困難なことがある。	物理的要因は変えることができない部分もあるため、保護者が来訪するときなどは臨機応変に大家さんの駐車場やコインパーキングを活用し、社用車の移動を行う。	今後ご利用の動向に応じて本部への報告、相談を欠かさずに行う。
2	児童発達支援の利用児と放課後等デイサービスの利用児が同時時間帯に活動をする場合において、使用できる空間に制限がある為、多動傾向の強い児童が終始走り回るなどして全体の集中を書いてしまうことがある。	開所当時のニーズの聞き取りから、半年経過したところであるため改めてご利用時間ご希望の聞き取りや確認を行う時期に入っている。	時間内によりよい環境設定ができるよう、職員間で課題点を話し合う。状況を見ながらご利用時間帯のご提案を丁寧に行う、保護者との面談を通して相談していく。
3	運動用具を収納するスペースに限りがあり、児童が自由に立ち入れる場に置かざるを得ないため、合理的配慮の徹底が難しい。	自由に立ち入れる場所であっても、触ってはいけないものとしての意識づけを根気よく促すよう職員間で徹底している。	今後置き場所を変えることも視野に入れ検討する。少しでも危険箇所が減るように配慮する。

○事業所名	インクルーいわき教室		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	0	(回答数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して相談や情報共有ができる環境整備を進めており、保護者や関係機関の意向を尊重した支援体制の構築を行っている。	訪問支援の開始に向けて、職員研修や報告体制の整備を進めており、支援の質の担保と標準化を図っている。	サービス開始後は、保護者および訪問先からの評価・フィードバックを積極的に収集し、支援内容の継続的な改善に繋げていく。
2	利用児の発達段階や特性に応じた支援が行えるよう、事前のアセスメント体制や訪問支援の設計を整備している。	保護者や訪問先との連携を円滑に行うためのアセスメント様式や情報共有フローの構築を行っている。	訪問先との連携を強化し、継続的かつ一貫した支援が提供できる体制を確立していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時点で訪問支援の実績がないため、実運用における課題の把握が十分ではない。	サービス提供が未開始であるため、実際の訪問支援における情報共有や業務フローの検証が未実施である。	試験的な訪問支援の実施やロールプレイ等を通じて、運用面の課題抽出と改善を進める。 定期的なミーティングや振り返りの機会を設け、スムーズなサービス開始に向けた体制強化を図る。
2			
3			